

連携

栗原市立栗原中央病院

広報誌

編集：広報委員会・地域医療連携室

平成23年5月発行

第38号

目次

- p 1 院長挨拶
お知らせ
- p 2 院長を退職するにあたり
新任医師紹介
- p 3 人事異動
東日本大震災～後方支援病院として～
- p 4 学会・研修会・論文発表
がん患者家族相談支援室市民学習会、CPC
編集後記

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

栗原市立栗原中央病院（代表）

TEL：0228-21-5330

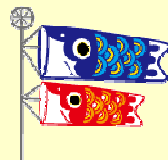
FAX：0228-21-5350

URL：<http://www.kam.or.jp/>

地域医療連携室（直通）

TEL：0228-21-5335

FAX：0228-21-5336



ご挨拶



お世話になっていきます。平成23年4月より、栗原中央病院長としてまいりました、小林です。今後とも、よろしくお願いいたします。

3月11日には、東日本大震災がありました。東日本大震災におきまして、被害にあわれた皆様にごくお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々にご遺族の皆様に対し、深くお悔やみ申し上げます。

今回の震災の被害を受けまして、栗原市では南三陸町の被災者の方々を受入れ、6カ所の避難所を用意いたしました。そして、栗原中央病院は栗原市医師会と協力して、栗原市立栗駒病院や花山診療所とともに、避難所での健康支援活動に取り組んでおりますし、また慢性疾患の治療など受診が必要な患者さんを積極的に受け入れています。岩手・宮城内陸地震からの復興時にいただいた支援に対する恩返しという意味も含めて、今後まだ長い時間がかかりそうな避難所生活にできるだけの健康面でのサポートを行っていきたく思います。

院長 小林 光樹

4月に入りまして、栗原中央病院では、おかげさまで医師や看護師を含めて、たくさんの新人や新規のスタッフを迎えることができました。人に相対する医療という現場では、そこで働くスタッフが大事な存在であり、宝物だと思っております。私も今回加わった一人ですが、新しく栗原中央病院の仲間に加わったスタッフが一刻も早くとけ込んで、実力を発揮してくれるだろうということを期待しています。

また、4月15日には新たなリハビリテーションのスペースが出来上がり、これから使用を開始していくこととなります。さらに充実した内容のリハビリテーションが受けられるように努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

われわれ病院スタッフと患者さん、ご家族とお互いを信頼することから始めて、スタッフが愛情と誇りを持って病院で働くことによって、地域の方々に安心と安全な医療を届けられる病院を目指していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



お知らせ

●平成23年4月よりDPC算定が開始されました。

●患者図書室やまぼうしの利用時間を延長しました。

変更前 10:00～15:00 ⇒ 変更後 8:30～17:00

院長を退職するに当たり

栗原市病院事業管理者 小泉 勝



平成 18 年 4 月より 5 年間努めてきました栗原市立栗原中央病院長をこのたび退くことになりました。「職員は病院を愛しましょう、地域の

医療関係者の皆さん、市民の皆さんに信頼されましょう」などと呼びかけ、これまで病院運営をしてきました。退院される皆様全員にお渡ししているアンケートからは確実に職員の対応、さらに医療内容について満足度が上がってきていることを実感しております。また紹介頂く患者さんの数も増え、さらに診療内容についても厳しいご注文があり、私としてはそのような声にお答えすることを嬉しく思っております。









地域の皆さんに支えられて、はじめて栗原中央病院のような中核病院は存在できる、このことを地域、特に医療関係者の皆さんに実行していただき本当にありがたく思っています。

初期研修医が 4 人、医師数 30 人近くとなり、次は診療科のバランス、スタッフの質の向上を目指して病院を発展させる段階となりました。この点、東北大教授であった新院長の小林光樹先生は適任です。皆様の御支援をお願いします。

私は今後栗原中央病院では健診センター長として、さらに本来の栗原市病院事業の管理者として、この地域の医療の発展に寄与していくつもりです。

多くの皆さんに支えられて現在の栗原中央病院に発展してきたと思っております。これまで有り難うございました。

新任医師紹介 よろしくお願いたします！

 <p>鈴木 慎二 内科医長</p> <p>4 月から内科医として勤務しております。22 年ぶりに地元（築館）に戻りました。糖尿病外来、教育入院を中心に力かせていただきたいと思います。</p> <p>栗原の地域医療への貢献、また、今回の震災で避難所に生活されている皆様へもお役に立ちたいです。よろしくお願いいたします。</p>	 <p>小笠原将教 整形外科副医長</p> <p>整形外科の小笠原と申します。会の高齢化に伴い、ますます整形外科のニーズが高まっていると感じるこの頃です。よりよい医療を提できるよう、日々精進したいと思います。</p>
 <p>船窪 正勝 放射線科医長</p> <p>4 月より放射線科医として勤務することになりました。栗原市は初めての土地であります。温泉など自然豊かな場所であるため時間をみつけていろいろ体験してみたいと思います。皆様方の日常診療および地域医療に貢献できるよう一生懸命努めてまいります。よろしくお願いいたします。</p>	 <p>斉藤夕布子 麻酔科副医長</p> <p>東北大学病院に勤務していましたが、出産のため一時退職し、こ 4 月より仕事に復帰しました。よ分かりやすく患者さんに説明し、心して手術を受けてもらえるよう 努力したいと思います。</p>
 <p>荒井 壮 内科副医長</p> <p>4 月より東北大学病院消化器内科より赴任しました。専門は下部消化管です。</p> <p>地域の皆様に満足していただけるような診療を心がけてまいります。よろしくお願いいたします。</p>	<p>臨床研修医</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>三井英俊 武井健太郎 三浦平寛</p>

◎人事異動

所属・職名	氏名	摘要
診療部・整形外科医長	原 清吾	平成23年3月31日付け退職
診療部・小児科医長	梅森 恒喜	//
診療部・内科副医長	植木 紳夫	//

東日本大震災 ～後方支援病院として～

平成23年3月11日(金)14時46分、宮城県沖を震源とする栗原市において震度7、マグニチュード9.0という大きな地震と共に、東北地方の全ての沿岸地域に津波が押し寄せ、大きな被害をもたらしました。当院の建物は、免震構造のため、前回の岩手・宮城内陸地震でも被害がなく、今回の地震でもエレベーターが止まるなどの被害はあったものの人的・物的被害は殆どありませんでした。

地震発生直後は緊急・救急患者の受け入れを行いました。それ以降は東北大学病院、石巻赤十字病院、大崎市民病院、気仙沼市立病院などから入院患者を引き受ける後方支援病院として患者の受け入れを行

いました。現在も南三陸町志津川の避難所や仮設診療所からの緊急入院患者の受け入れを24時間体制で行っています。また、南三陸町からの2次避難所を栗原市に開設しましたので、その避難所の巡回診療を移転日の4月3日から開始しております。

復興に向けてもまだまだ時間はかかりそうです。岩手・宮城内陸地震の際に多くの方々のお力をいただき、励まされて栗原市も復興してまいりましたから、今度は少しでもお役に立てればと思います。

多くの命が奪われたこの災害から命の尊さを考えさせられ、偽性になられたの方々のご冥福を祈らずには居られません。 地域医療連携室長 渡邊和子



地震発生後の救急外来



救急車の受入れ



救急患者の受付



給食を1階から3～5階へ運ぶ



玄関前にて外来のトリアージ



外来診療が限られ患者様へ説明



避難所を巡回



石巻赤十字病院から患者様が到着



イスラエル医療団来院



学会・研修会・論文発表

☆World Journal of Gastroenterology 2010.12.14 P.5815~P.5821

『Toll-like receptor 9 gene mutations and polymorphisms in Japanese ulcerative colitis patients』 布施香

☆脾臓 日本脾臓学会誌 2010 Vol.25 No.6

『慢性脾炎における禁煙療法（禁煙補助療法）』 佐藤晃彦

☆消化器内科 Vol.52 No.2 Feb./2011 科学評論社

P.219~P.224 特集Ⅱ重症急性脾炎の病態解明と治療の新展開

『急性脾炎における全身性免疫応答の解析』 佐藤晃彦, 廣田衛久**, 下瀬川 徹**

***東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野

☆第50回日本呼吸器学会学術講演会 2010.4.23 ~京都府~

誤嚥性肺炎『超高齢者肺炎の予後規定因子に関する検討』 中山昇一

☆第26回日本静脈経腸栄養学会 2011.2.17-18 ~名古屋~

『当院における胃瘻以外の経管栄養での半固形化栄養剤投与の検討』 名久井雅樹

☆日本TDM学会第34回セミナー シンポジウムⅡシンポジスト 2011.1.23 ~山形県~

『経皮吸収型鎮痛薬の製剤特性ならびに体内動態情報を要した与薬管理』 若生健司

☆第74回日本皮膚科学会東部支部学術大会 2010.11.20-21 ~仙台市~

『耳介後部に生じ乏色素性かつ有茎性を呈した基底細胞癌の1例』 武内出穂

☆第190回日本消化器病学会東北支部 2011.2.5 ~仙台市~

『特発性慢性偽性腸管閉塞症の1手術例』 高橋宏和, 佐藤晃彦, 名久井雅樹, 中鉢誠司, 菅井隆広, 佐藤修一, 小泉 勝

☆第46回宮城県栄養改善学会 2011.4.23 ~仙台市~

『入院アンケートを継続的に実施して』 佐藤友理

☆第14回超音波骨折治療研究会 2011.1.22 ~東京都~

『右大腿骨骨幹部のinsufficiency fractureに対して超音波骨折治療を行った1例』 〇原清吾、大泉晶、高橋光浩

☆第32回東北骨代謝研究会 2011.2.5 ~仙台市~

『活性型ビタミンD3投与が骨粗鬆症患者の背筋運動療法に及ぼす影響』 原 清吾

☆一般社団法人 日本集団災害医学会ホームページ 2010.3.11UP

平成20年岩手・宮城内陸地震調査特別委員会報告書 P.8~P.17

『栗原市立栗原中央病院における災害医療対応』 内田 孝

☆看護みやぎ 2011.2.1 第112号 P.12 社団法人宮城県看護協会

看護の心で病院づくり vol.4 で宮崎副院長が取材を受けられ掲載されております。



がん患者家族相談支援室市民学習会

平成23年1月31日(月)14:00から、市民の皆様、「がん」について、出来るだけ分かりやすく学ぶ機会をつくり、理解を深めていただきたいと考え、市民学習会を開催しました。

第1回目は、がん相談運営部会長の内田副院長から「乳がんのはなし」と題し、参加者の皆さんとディスカッションをしながらのお話でした。

参加者からのアンケートには、「分かりやすい講話でとても良かった」「自己管理、早期発見すれば怖くない病気だと知った」などの感想をいただきました。



CPC

平成23年2月18日(金)17:30から、今年度2回目のCPCを開催しました。外科医長の谷山裕亮医師の司会で、主治医内科部長中山昇一医師の指導のもと研修医が症例を呈示し、大崎市民病院臨床研究副部長病理診断科長の坂元和宏先生より病理指導を賜りました。



編集後記

5月、ふと気がつけば、新緑の季節を迎えようとしています。震災後、夢中で毎日を送ってきたように思います。連日、テレビや新聞で被災地の映像や記事を目にし、驚く出来事ばかりです。身元不明の患者さんが運ばれ、沢山の人の協力をえて、やっと家族を探ることができたこともありました。今、私達が出来ることは何かと考えさせられます。関わってくださった方々に感謝し、人との繋がりを大切にしていきたいと思っております。 S

